

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	旧盛岡競馬場跡地整備に係る調整事務			事業コード	44
所属コード	123000	課等名	企画調整課	係名	計画係
課長名	古舘 和好	担当者名	畠山 崇	内線番号	3817
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	うるおいのある公園・街路樹の確保	コード	4
	基本事業	公共空間の緑化推進	コード	2
予算費目名	一般会計 2 款 1 項 6 目 旧盛岡競馬場跡地整備事業（001-04）			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

整備スケジュールや用地買戻しの進行管理、跡地の維持管理など旧盛岡競馬場跡地整備の推進に係る各種調整を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 8 年 4 月に新庄字八木田地区に新競馬場がオープンしたことを契機に、上田字堤頭外地区にある旧競馬場の跡地利用について検討を始め、平成 10 年度に「旧盛岡競馬場跡地利用計画」を策定した。平成 13 年度には、「旧盛岡競馬場跡地整備基本設計」を取りまとめ、旧競馬場跡地全体（約 21 ヘクタール）のうち、市街化調整区域（約 17 ヘクタール）を対象に整備を進めることとした。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

跡地利用に係る市の対応、利用計画、用地取得等について、市議会での多くの質問（21 年 6 月定例会：今後の土地取得計画と暫定開放について、同年 6 月定例会：進捗状況について、22 年 3 月定例会：道路部分の土地取得状況及び整備計画について）が出されている。また、地元町内会をはじめ、市民や各種団体からも、跡地の利用について要望や意見が寄せられている。

ミニバスターミナルゾーンの新たな利活用方針については、平成 23 年度に庁内から案を募集したが現在まで決定していない。庁内から引き続き案を募集するとともに、地元とも検討しながら具体的な案を取りまとめる必要がある。

なお、ミニバスターミナルゾーン用地は、市街化調整区域となっており、公共的施設整備であっても原則として開発許可が必要であるなど、活用に係る制約が大きい。

現在、新川目トンネル工事（国の復興支援事業）の発生土の跡地内（自由広場ゾーン）への受入れについて、岩手河川国道事務所と調整を行っている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

- ・旧盛岡競馬場跡地
- ・関係機関，関係課，地元町内会など協議説明対象機関及び団体

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 整備対象面積	ha	17.1	17.1	17.1	17.1	17.1
B 取得が必要な用地残面積	ha	4.2	4.0	3.4	3.4	2.2
C 協議等対象機関・団体数	団体	25	26	26	26	23

（3）24 年度に実施した主な活動・手順

- ・関係課及び外部関係機関との調整
- ・地元町内会等への事業説明（配布物を含む。）
- ・用地買戻しに係る財産取得事務
- ・跡地管理事務（草刈及び修繕）

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 用地に関する協議交渉回数	回	18	16	10	13	10
B 整備に関する協議回数	回	17	33	20	23	20
C 地元への説明回数	回	4	16	5	10	5

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

公園ゾーンや環境ゾーンなどの各ゾーンの整備事業が円滑に行われ，跡地利用の具体化が進むようにする。

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 取得済用地面積	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	ha	12.1	12.3	12.9	12.9	14.1
B 立地施設等整備内容が具体化した面積	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	ha	17.1	17.1	17.1	17.1	17.1
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	74	111	1,472	330
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	74	111	1,472	330
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	500	500	500	500
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	2,000	2,000	2,000	2,000
計	トータルコスト A+B	千円	2,074	2,111	3,472	2,330
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

公園ゾーンを中心とした跡地利用の具体化は、公園の緑化推進に結びついている。

② 市の関与の妥当性

市が策定した跡地利用計画の推進に係る事業であり、妥当である。

③ 対象の妥当性

旧盛岡競馬場跡地は、平成 29 年度の完成を目指し、関係機関、関係課、地元町内会などと調整を図りながら進めており、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

廃止・休止した場合は、整備の全体調整が図られない。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

自由広場ゾーン及び環境ゾーンについて、公園ゾーンと調和を図りながら整備することで、一体的な公共空間の緑化推進が図られ、成果が向上する。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

草刈等の跡地の維持管理経費のみであり、その他の事業費は計上されていないため、削減の余地はない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

旧盛岡競馬場跡地整備に関する調整を進めながら諸問題の解決に努め、整備が計画的に行われるようにする。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

複数のゾーンで整備が行われているため、整備工程や整備手法について検討する必要があるが、今後整備担当課等と十分な調整を行い、工事の合併発注を検討しながら整備を進めていく。

また、ミニバスターミナルの新たな利活用方針について検討する必要があるが、庁内及び地元との調整を図るなど、利活用の具体的な案を取りまとめていく。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

競馬場跡地の保健福祉ゾーン、公園ゾーン、環境ゾーン、自由広場ゾーン、ミニバスターミナルゾーンの全体整備の進行管理等を行うため、関係課、関係機関との調整や地元町内会への説明等を行った。

自由広場ゾーンについては、24年度の基本計画、25年度の実施計画、26年度からの整備に円滑につなげていく必要があることから、整備担当課と適切に連絡を取りながら、整備手法の検討を行う。

また、国道106号の復興支援道路の整備から生ずる残土の受入れについて、関係機関と調整を行う。